

2023宮城県議選 立候補予定者 こども・子育て政策に関するアンケート

回答者名【佐々木幸士】 立候補予定選挙区【太白】 所属政党【自由民主党】

問1. 子どもをもう一人、と望む家庭でも経済的理由から二の足を踏む親御さんもいると聞きます。東京都の018サポートや、大阪府の子育て世帯向け食料支援など、経済支援を行っている都道府県もありますが、子どもを生き育てやすい県にするために、宮城県には何が必要と考えますか？

- ・児童手当は所得制限の撤廃し、高校生まで支給期間を延長、多子加算(第3子以降の増額)の実施
- ・0歳から2歳までの出産・子育て応援交付金(10万円)の制度化を国に求めて参ります
- ・合計特殊出生率を上げる取組強化と女性デジタル人材の育成や男女間賃金格差の是正の推進
- ・こども問題を解決するため「縦割り×横割り×年代割り」の打破とこども関連予算の増額

問2. 埼玉県議会で提出されていた虐待禁止条例の一部改正案については賛否両論の声があがっていました。宮城県においてもこのような法案が必要と考えますか？

必要ない

問3. 子育て世帯の関心が高いいじめ問題ですが、宮城県としてどう対策していくべきと考えますか？

- ・幼少期からの発達段階に応じた「命の尊厳」「命の大切さ」を育む予防教育の実践強化
- ・教師の原点に立ち返り、児童生徒と向き合う時間を再構築するため、家庭教育・社会教育との連携
- ・国・県・市町(行政・文科省・県市町教育委員会)の果たす役割分担
- ・児童生徒の発達段階に応じたきめ細かな情報の共有化の連続性が必要
- ・いじめを受けている児童生徒・保護者・先生・学校を孤立させない

問4. ひとり親家庭には、医療費のサポートがあるものの、一度立て替えた上で後日振り込まれる方法となっており、経済的に厳しいという声があります。これについてどうなっていくべきと考えますか？

改善すべきである

問5. 今年8月に発表された宮城県医療的ケア児等相談支援センター(愛称:ちるふぁ)の調査によると、医療的ケア児は県内に333人います。支援は進んでいますが、一方当事者からはまだ相談してもらい回しになるという現状は変わってないという声もあります。医療的ケア児の相談体制としてはどうなっていくべきだと思いますか？

- ・病児・病後児保育施設など多様な保育の受け皿整備と保護者負担の軽減を推進

こども達のために、日本を変える

Florence